

- 問1 東京都港区の統計において、1980年代半ばと現在を比較すると、かつては減少傾向にあった人口が、近年では40歳代前後の層を中心に顕著な増加に転じています。このような人口動態の変化をもたらした、都市中心部での取り組みとして最も適切なものはどれか。 (2024年 岐阜公立入試 類似)
1. 郊外における大規模なニュータウンの建設
  2. 工場の跡地などを活用した大規模な再開発
  3. 過疎地域からの集団移住を促す制度の導入
  4. 都心部から地方への企業本社の移転促進
- 問2 横浜市、川崎市、さいたま市などは、東京都心部へ通勤・通学する人々が多く住む「ベッドタウン」としての性格を持っています。これらの都市の人口統計における一般的な傾向として、正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
1. 昼間人口よりも、そこに居住している夜間人口のほうが多い。
  2. 昼間人口が夜間人口を大幅に上回り、昼夜間人口比率が200%を超える。
  3. 他地域からの通勤者が非常に多いため、昼間人口と夜間人口がほぼ一致する。
  4. 夜間に都心部へ移動する人が多いため、夜間人口が極端に少なくなる。
- 問3 関東地方の各都県の人口特性を比較した統計において、埼玉県は東京都と比べて「昼夜間人口比率」が低い数値を示す特徴があります。この要因を説明した文として最も適切なものはどれか。 (2021年 徳島公立入試 類似)
1. 鉄道網の整備により、県外にある東京都心部などへ通勤・通学する人々が居住するベッドタウンとしての性格が強いため。
  2. 県内の内陸部に広大な工業団地が造成され、夜間勤務に従事するために県外から流入する労働者が非常に多いため。
  3. 東京都に比べて地価が高いため、職場の近くに住むことを避けて、夜間だけ県外へ移動する人々が増加しているため。
  4. 豊かな自然環境を求めて、都心部から埼玉県内へ移住する高齢者が増え、昼間の生産年齢人口が減少しているため。
- 問4 東京都の人口に関する統計において、昼間人口が約1557万人であるのに対し、夜間の常住人口は約1315万人となっています。このように昼間人口が夜間人口を200万人以上も上回っている主な要因として、最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 埼玉県、千葉県、神奈川県などの近隣都県から、通勤や通学を目的として多くの人々が流入するため。
  2. 都心部の再開発により、郊外に住んでいた人々が再び東京都内へ住居を移す「都心回帰」が進んだため。
  3. 東京都の出生率が周辺の県に比べて非常に高く、若年層の人口が自然増加し続けているため。
  4. 東京都内に大規模な工場が建設され、夜間に周辺地域へ働きに出る労働者が減少したため。
- 問5 千葉県の浦安市から袖ヶ浦市、富津市に至る東京湾の東岸に位置する工業地域について述べた文として、正しいものを選択してください。 (2023年 大阪公立入試 類似)
1. 広大な埋立地を利用して、石油化学コンビナートや製鉄所などの大規模な工場が集中している。
  2. 古くからの市街地を中心に、出版・印刷業や機械工業などの都市型工業が発達している。
  3. 高速道路のインターチェンジ付近に、電子部品やIC（集積回路）を製造する工場が進出している。
  4. 豊かな水資源と電力を利用して、内陸部でアルミニウム工業や繊維工業が発展している。
- 問6 関東地方の北西部に位置し、長野県や新潟県といった中部地方の県と境界を接している内陸の県を選びなさい。 (2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 群馬県
  2. 栃木県
  3. 茨城県
  4. 埼玉県
- 問7 群馬県大泉町の公共施設の案内やウェブページでは、日本語や英語に加えてポルトガル語による表記が積極的に取り入れられています。このような取り組みが行われている背景として最も適切な理由はどれですか。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 町内に多く居住するブラジル人などの外国籍住民が、日常生活をより生活しやすいようにするため
  2. 海外からの観光客を積極的に誘致し、地域の観光消費額を増加させるため
  3. 町内の日本人が、多くの外国語に接することで国際的な語学力を向上させるため
  4. 海外のIT企業を工業団地に誘致し、最先端の技術を取り入れる環境を整えるため
- 問8 群馬県におけるキャベツの出荷量は、3月は約80tであるのに対し、8月には1万tを超えて激増するという統計があります。また、群馬県の栽培地点は、千葉県などの平地の地点と比較して8月の気温が低く保たれているという特徴があります。このような標高の高い地域で行われる農業について説明したものと、最も適切なものはどれですか。 (2025年 福岡県公立入試 類似)
1. 夏でも冷涼な気候を利用して、平地での生産が難しい時期に野菜を栽培・出荷する高冷地農業。
  2. 冬の温暖な気候を利用して、ビニールハウスなどで成長を早めて出荷時期をずらす促成栽培。
  3. 大消費地に近い立地を活かして、生産コストを抑えながら鮮度の高い野菜を届ける近郊農業。
  4. 化学肥料や農薬を抑え、消費者の健康や環境に配慮して農作物を育てる有機農業。
- 問9 千葉港の貿易の特徴について、2021年の統計データ（総輸入額は約3兆4133億円）に基づいた背景を説明したものと、正しい記述はどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
1. 輸入額の5割以上を占める石油は、主に京葉工業地域の製油所などで消費・加工されている。
  2. 輸出額の上位2品目である石油製品と鉄鋼を合わせても、輸出全体の1割に満たない状況である。
  3. 千葉港の総輸入額の大部分は、成田国際空港における貿易額が合算されたものである。
  4. 石油や鉄鋼の輸出入が盛んであるのは、千葉港が日本最大のコンテナターミナルを有しているからである。
- 問10 東京都の昼間人口比率が100を大きく超え、全国で最も高い数値を示す背景には、どのような都市構造や社会現象が関係していますか。周辺の県との関わりを踏まえた説明として最も適切なものを選びなさい。 (2019年 和歌山公立入試 類似)
1. 都心部の地価高騰などの影響で郊外に住宅地（ベッドタウン）が形成され、職住分離が進んだため
  2. 都心部に広大な農業用地が確保され、周辺県から季節労働者が大量に流入するようになったため
  3. 東京都の夜間人口が周辺県に比べて急激に減少したことで、相対的に昼間の活動人口が目立つようになったため
  4. 周辺県の産業が衰退したことにより、すべての住民が東京都内に移住して夜間人口が急増したため
- 問11 関東地方では、神奈川県、埼玉県、千葉県といった周辺の県から東京都心部へ移動する「通勤・通学人口」が非常に多いという特徴があります。このように、都心に勤務・通学する人々の住宅地としての役割を担っている都市や地域を指す言葉として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 香川公立入試 類似)
1. ベッドタウン
  2. 工業地域
  3. 限界集落
  4. 政令指定都市
- 問12 1980年代までの都市部では、地価の高騰などにより人口が郊外へ流出する現象が見られましたが、近年では地価の下落や再開発を背景に、郊外から再び都市中心部へと人口が流入する現象が起きています。この現象を何と呼びますか。 (2024年 岐阜公立入試 類似)
1. ドーナツ化現象
  2. 過疎化現象
  3. 都心回帰現象
  4. 限界集落化

## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 工場の跡地などを活用した大規模な再開発	東京都心部では、以前は工場や倉庫として利用されていた土地が、再開発によって大規模な集合住宅（タワーマンションなど）へと生まれ変わりました。これにより、職場に近い環境を求める子育て世代などの人口流入が加速し、特定の年齢層の割合が高まる結果となりました。
問2	答え 1 昼間人口よりも、そこに居住している夜間人口のほうが多い。	ベッドタウンと呼ばれる周辺都市では、朝の時間帯に都心のオフィスや学校へ向けて多くの住民が移動（流出）します。その結果、昼間にその都市に残っている人数は、夜間にそこで寝泊まりしている居住者数よりも少なくなります。つまり、昼夜間人口比率（夜間人口に対する昼間人口の割合）が100%を下回るのがこれらの都市の特徴です。
問3	答え 1 鉄道網の整備により、県外にある東京都心部などへ通勤・通学する人々が居住するベッドタウンとしての性格が強いため。	埼玉県は東京都に隣接しており、交通網が発達していることから、都心へ通勤・通学する人々の居住地である「ベッドタウン」としての役割を担っています。そのため、夜間の居住人口に比べて、昼間に県内に留まっている人口が少なくなり、昼夜間人口比率（昼間人口÷夜間人口×100）が100%を下回るといふ特徴があります。これに対し、オフィスや学校が集中する東京都は、昼間に周辺県から人が流入するため、比率が100%を大きく超えます。
問4	答え 1 埼玉県、千葉県、神奈川県などの近隣都県から、通勤や通学を目的として多くの人々が流入するため。	東京都は日本の政治・経済・教育の中心地であり、多くの企業や学校が集中しています。そのため、夜間は埼玉県や千葉県、神奈川県といった近隣都県の自宅を過ごしている人々が、日中になると仕事や学びのために東京都へ移動してきます。この通勤・通学に伴う人口移動の結果、東京都の昼間人口は夜間人口（その場所に住んでいる人の数）を大幅に上回ることとなります。
問5	答え 1 広大な埋立地を利用して、石油化学コンビナートや製鉄所などの大規模な工場が集中している。	千葉県側の東京湾沿岸に広がる京葉工業地域は、戦後の高度経済成長期に大規模な埋立が行われて形成されました。この地域は原料の輸入や製品の出荷に便利な臨海部の利点を活かし、広大な敷地を必要とする石油化学工業や鉄鋼業といった重化学工業の割合が非常に高いことが特徴です。
問6	答え 1 群馬県	関東地方には海に面していない内陸県が3つありますが、その中で最も北西に位置し、信越地方（長野県・新潟県）と隣接しているのが群馬県です。利根川の流域にあたり、地域の多くを山地が占めているのが地理的な特徴です。
問7	答え 1 町内に多く居住するブラジル人などの外国籍住民が、日常生活をより生活しやすいようにするため	群馬県の大泉町は製造業の工場が多く、1990年の出入国管理法の改正以降、労働力として来日したブラジル人などの外国籍住民が多く居住しています。行政がポルトガル語を併記するのは、観光客の誘致ではなく、地域住民として定住している外国人が行政サービスや生活情報を得やすくし、共に暮らす「多文化共生」を実現することが目的です。
問8	答え 1 夏でも冷涼な気候を利用して、平地での生産が難しい時期に野菜を栽培・出荷する高冷地農業。	群馬県の嬭恋村などに代表される地域では、標高が高いことによる「夏に冷涼な気候」を活かした農業が行われています。平地の気温が上昇し、キャベツなどの生育が難しくなる8月前後に収穫時期を合わせることで、市場への安定供給と高い収益を実現しています。冬の温かさを利用する「促成栽培」や、都市への近さを利用する「近郊農業」とは、利用する自然的・社会的条件が異なります。
問9	答え 1 輸入額の5割以上を占める石油は、主に京葉工業地域の製油所などで消費・加工されている。	千葉港の輸入額の54.5%を占める石油は、港の背後に広がる京葉工業地域の石油コンビナートや製油所で原料として使用されます。そこで精製・生産された石油製品や鉄鋼が、再び千葉港から輸出されるという因果関係があります。なお、成田国際空港の貿易額は通常、空港の統計として個別に扱われるため、港湾の統計と混同しないよう注意が必要です。
問10	答え 1 都心部の地価高騰などの影響で郊外に住宅地（ベッドタウン）が形成され、職住分離が進んだため	都市の過密化や地価の高騰により、人々の居住機能が郊外の「ベッドタウン」へと移転しました。一方で、オフィスや学校などの都市機能は都心部に集中したままであるため、昼間だけ都心へ移動し、夜間は郊外の自宅へ帰るといふ「職住分離」が進展しました。この構造的な要因により、東京都の昼間人口比率は100を大きく上回る状態が続いています。
問11	答え 1 ベッドタウン	東京都心部での地価の高騰や、鉄道網を中心とした交通機関の発達により、居住機能を周辺の県が分担するようになりました。特に東京に隣接する神奈川・埼玉・千葉の3県は、都心へ1時間程度でアクセスできる場所に大規模な住宅団地が形成されており、昼間は都心へ働きに出る人々が住む街として機能しています。
問12	答え 3 都心回帰現象	高度経済成長期以降、都市部では地価が上昇したために居住地が郊外へと広がるドーナツ化現象が起きていました。しかし、1990年代後半以降、バブル崩壊による地価の下落や、都市中心部での大規模な再開発による高層マンションの建設が進んだことで、利便性を求める人々が再び都心に住むようになりました。